［認知症対応型共同生活介護用］

作成日　平成２１年２月６日

１．　評 価 結 果 概 要 表

【評価実施概要】

事業所番号	0570706606
法人名	医療法人　仁恵会
事業所名	グループホーム夕陽の丘
所在地	湯沢市柳田字中嶋227番地の1 （電　話）0183-79-5158

評価機関名	財団法人　秋田県長寿社会振興財団		
所在地	秋田市御所野下堤5-1-1		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	

【情報提供票より】（21年1月1日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成　13 年　4 月 1 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	7 人	常勤　7人，　非常勤　人，　常勤換算　人

（２）建物概要

建物構造	木 造り
	1 階建ての　1 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	27,280 円		その他の経費（月額）	17,400 円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

（４）利用者の概要（1月1日現在）

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護１	3人		要介護２	5人	
要介護３			要介護４		
要介護５	1人		要支援２		
年齢	平均	81 歳	最低	77 歳	最高　86 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	須田医院　／　梨木歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームから望む鳥海山に沈む夕陽は大変印象的で、「夕陽の丘」というホーム名の由来となっており、「いつまでも輝き続けて欲しい」という願いが込められている。「自立と相生」を理念とし、介護するだけのホームにしたくないという運営者の思いを、管理者・職員と共有し、実践されている。職員は、利用者一人ひとりに合った、必要最小限の援助で自立を支えている。また、利用者同士も、信頼関係を築き助け合うことで、互いの尊厳を保ち、生活を充実させている。利用者はゆとりのある穏やかな表情をしており、家庭的な温かい空気の流れるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回改善点なし。更なる向上を目指し、理念の下、運営者・管理者・職員が一丸となり、取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	評価を活かし、介護方針をホーム全体で話しあい、運営者が中心となり、利用者の安心した生活に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	２ヶ月に１回開催される運営推進会議では、期間内に起こった具体的な事柄について話し合われ、疑問点を解決しながら、サービスの向上に繋げている。また、介護の内容を職員全体でミーティングし、更なるケアの充実を目指している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	介護計画は、家族と相談して作成されており、見直しの際にも家族の意見が引き出されている。日常的に家族と密に連絡を取り合い、利用者が安心して生活できるように取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	隣接する民家もなく、地域との連携を図れる環境とはなっていないが、月に１回、地域の婦人会の訪問がある。また、運動会を見に出掛ける等、ホーム側から積極的に地域との交流に努めている。

２．　評　価　報　告　書

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自立と相生」の理念の下、利用者が住みなれた地域の中で、充実した生活を送る事ができるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基く支援のあり方が、運営者から管理者・職員へと浸透している。月１回の全員参加のケア会議・日々のミーティングを通し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の近くには民家が無く、地域との交流を図ることは難しい環境にあるが、小学校の運動会を見に行ったり、町のスーパーに出かけるなど、積極的に交流できるように努めている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を理解している。年２回、個々に自己評価を行い、評価結果について話し合いを持ち、相互に助言し合いながら、自己研鑽に努め、サービスの向上に繋げている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２ヶ月に１回、運営推進会議が開催されている。利用者の状態や生活状況をわかりやすく説明し、具体的な内容を話し合い、サービスの向上に向け取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	湯沢市見守りネットワークに参加し、利用者の連絡やホームに関する情報交換を行なっている。役所にも積極的に出向き、密接に連携をとっている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が利用者の状況を把握できるように、日常的に連絡を取り合っている。預かり金は、ホーム独自の監査があり、３ヶ月に１回、監査報告書を通知している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見・不満・苦情は、いつでも受け入れる体制にある。家族とは日常的に連絡を取り合い、気づいた点を話し合える関係となっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者側は、異動を行なわない方針で、全ての職員を常勤とし、離職者がでないよう配慮している。職員全体の勤務年数が長く、利用者が安心して生活できる場となっている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の県内外の研修参加を積極的に勧めている。また、研修報告会を開催し、全職員に伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に管理者ネットワークがあり、他のグループホームと、独自の活動や問題点等について、情報交換を行っている。また、話し合われた内容を職員に伝え、サービスの質の向上を目指し、共に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学の機会を設け、時間をかけて本人・家族と話し合いを重ねている。自宅で使用していた物を持ち込んでいただき、生活暦を家族から聴取し、できるだけ利用者の生活リズムを変えないように配慮している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の中にある「相生」という、互いに他のものを生み出す関係が職員に浸透しており、調理や裁縫を教わるなど、共に信頼関係を築き生活する中で、入居者同士も互いに助け合い、支えあう関係作りが生まれている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントが充分に行われ、共に過ごし合う中で、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人が安心して生活していくために、家族と話し合い、本人の要望・思いを伺い、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	３ヶ月毎に、介護計画の見直しが行われている。日常のミーティング内容と家族からの意見を伺い、新たな計画書に反映され、家族への確認も充分にされている。また、職員間で共有し、目標達成に向けて取り組んでいる。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設の作業療法士の指導で、毎日の体操を行っている。また、夜間帯の病状が心配される利用者は、看護師が様子を見るなど、柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 　本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医への受診を継続している。受診時は、基本的にホーム側で付き添いし、主治医と連絡調整しているが、家族で付き添いしたいという方には、状況報告書を家族に渡し、利用者の状況が、医師に確実に伝わるように努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 　重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、ホームでの出来る事・出来ない事を家族に説明し、かかりつけ医との話し合いもされている。また、運営者は終末期のあり方について十分理解しており、前向きに取り組んでいく姿勢がある。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 　一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人格を尊重し、あたたかく親しみのある言葉かけや、対応がされている。記録等の個人情報は、他者が閲覧できないように管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 　職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを大切にし、柔軟に対応しており、状態や希望に合わせた支援を心がけている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、職員と一緒に行なっている。食事時間に間に合わない利用者を、自然に待っているようになり、全員一緒に、揃って食事を摂るのが習慣になっている。利用者同士の連帯感が強く、お互いを思いやりながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は清潔で整理されており、本人の希望・体調に合わせ、一人ひとりが、ゆっくりと入浴している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に１回、地域の婦人会の方が、一人一品手料理を持参され、利用者と共にお茶を楽しんでいる。また、誕生会や行事には、利用者・職員が一緒に準備し、お膳をかこみながら、お酒の提供もしている。忘年会は、家族と一緒にホテルで食事をし、１年間の様子を、ビデオを見ながら楽しむ事が出来るよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に行なっている買物や畑仕事の他、月１回は外食を楽しんだり、小旅行と称しドライブに出掛けて気分転換を図るなど、外出支援の年間行事予定が作成されている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関にはセンサーが設置され、施錠はしていない。職員は、利用者が外に出そうな気配を察知した場合、付き添うことで安全で自由な生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練は、年2回地域の消防の方の協力を得て行なっている。そのうち１回は夜間を想定し、災害に対する意識を高めている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の管理栄養士が、栄養バランスの整った食事となっているかどうか、献立を確認している。また、一人ひとりの状態を把握した支援がされており、個々の摂取量の記録から、不足のないように心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には緑が置かれ、廊下には書初めの習字が掲示される等、季節ごとの装飾が工夫され、居心地のよい、家庭的な雰囲気を感じさせる、優しい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使いなれた家具を持ち込んでいただき、家族の写真を飾るなど、安心して生活できるように支援している。		

※ ▒ は、重点項目。